会議結果報告書

１　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（ホームタウン茅ヶ崎自治会）
２　日時	平成 30 年 10 月 14 日（日）10：15～11：15
３　場所	ホームタウン茅ヶ崎自治会集会所
４　出席者	（資源循環課）添田主幹、小田副主査 （環境事業センター）安齋担当主査、加茂主任 （ホームタウン茅ヶ崎自治会）参加人数：28 人
５　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●資料２ 参考資料の表４ 本市での有料化導入シミュレーションについて、なぜ市民１人当たりの負担額が先行市と同じになるか教えてほしい。 →本市の人口で割り返しているだけのシミュレーションのため同じ額となる。 ●単純に割り返すのではなく、精査して負担額を試算してほしい。 ●知ってる？紙の分別をホームタウン茅ヶ崎自治会全世帯分に配布してほしい。 →在庫を確認し、可能ならば全世帯分お届けする。 ●知ってる？紙の分別を市民全員に配布して、分別を啓発した方がよい。 ●有料化を導入した場合の市民１人当たりの負担額が 1,500 円程度と簡単に言うが、高齢者世帯の中では、それを出すのも血がにじむような思いで捻出しなければならない人もいる。チラシを配布するだけでなく、決め細やかな説明等をして、市民に十分な配慮をしてほしい。 ●ストローなどプラスチック製品について、茅ヶ崎市はどのように考えているか。 →茅ヶ崎市は、プラマークが入っているものを資源物としており、プラスチック製品については燃やせないごみとなっている。新たな資源化については多額の経費が発生するが、現在のところ、プラスチック製品についての資源化は検討していない。なお、市町村が集まる会議等があり、国や県に意見ができる場があるので、その場において、メーカーへの過剰包装をやめるなど、ごみの抑制について今後も働きかけていきたい。 ●有料化を実施する場合には、対象を十分に検討してほしい。 →先行市でも全てを対象としているのではなく、剪定枝や自治会清掃などのボランティアごみ、おむつなどの生活必需品については、可燃ごみではあるが、有料化の対象とはしていない。導入する場合には、先行市の例を参考にして検討する。 ●広報紙の掲載内容について、不要なものが多いため、定期的にごみの分別について

	一面を使って掲載してほしい。 →貴重な意見として頂戴したい。検討したいが、紙面に限りがあり、各課が確保できるスペースはわずかであるため、チラシを挟み込むという手法になってしまうかもしれない。 ●収集運搬をしている職員があいさつをしてくれて、住民に気を使ってくれるので感謝している。 以上